

平成30年度スポーツ庁委託事業
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

成果報告書

平成31年3月
北海道

スポーツの風で 未来をひらく

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功に導き、日本各地において障害の有無にかかわらずスポーツを行うことができる社会を実現するためには、地域における障害者スポーツの普及促進が喫緊の課題となっています。

北海道では、障害者の継続的なスポーツ実施促進に向けた障害者スポーツの振興体制の強化、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を行うため、スポーツ庁の委託事業を実施しました。

最近「障がい者スポーツ」ではなく、「パラスポーツ」という言葉がだんだん広がってきています。国際パラリンピック委員会（IPC）ではパラスポーツをパラリンピックだけではなく、障がい者がプレーするスポーツ全般を指して「パラスポーツ」と呼ぶと明示しています。



北海道障がい者スポーツ推進プロジェクト

実施年度／平成30年度

目的／本プロジェクトはスポーツ庁の委託を受け、障害者の継続的なスポーツ実施促進に向けて、道内の各地域における課題に対応して、障害者スポーツの振興体制の強化、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図ることを目的に実施する。

事業内容／①地域における生涯に亘る継続的な障害者スポーツの実施機会の提供
②総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ機会の提供



実行委員会

○実行委員

- ・道教委、北海道障がい者スポーツ協会、北海道体育協会
北海道社会福祉協議会、障害者団体、実施市町村・団体、
有識者

■事務局／北海道庁

◆内容

- ・地域課題の把握
事業内容の検討、事業の検証

■実践地域

- ・地域モデル→運営委員会で企画・運営
・総合型SCモデル→障害者スポーツ検討会議

■地域運営委員会

- ・事業企画の検討、進捗状況の確認

事業企画

事業内容

パラスポ運動会【地域モデル】

- ・地域で障がいのある人、ない人が一緒にパラスポーツの体験イベントを実施

- パラスポーツを中心とした多項目体験イベントの実施
- 社会福祉協議会や教育委員会との連携
- 企画イメージ→運動会

パラスポ倶楽部【総合型SCモデル】

- ・総合型地域スポーツクラブにおける障害者参加型プログラムの実施

- 総合型SCで障害者運動プログラムを定期的実施
- 総合型SC北海道ネットとの連携
- 企画イメージ→障害者向けのスポーツ教室



■ 実行委員会

パラ
スポ

HOKKAIDO

(1) 会議の目的

- ・本プロジェクトは障害者の継続的なスポーツ実施促進に向けて、道内の各地域における課題に対応して、障害者スポーツの振興体制の強化、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等について検討する。

(2) 検討事項

- ・域内の障害者スポーツに関する課題把握と分析
- ・障害者スポーツの推進体制の強化についての検討
- ・障害者スポーツ実施環境整備のモデル事業の検討と評価・検証

(3) 委員

1	北海道環境生活部スポーツ振興課リハビリ・パラスポーツ連携室長 本田 晃
2	北海道保健福祉部障がい者保健福祉課長 東 秀明
3	北海道教育庁生涯学習課長 相内 修司
4	北海道体育協会事務局長 高間 亨
5	北海道障がい者スポーツ協会事務局長 羽田 慎哉
6	北海道スポーツ推進委員連絡協議会会長 野口 和之
7	北海道社会福祉協議会事務局次長 富田 彰
8	北海道総合型SC北海道ネット事務局長 井上 諭一
9	学識経験者(深友企画代表) 深川 友貴
10	せたな町教育委員会事務局長 杉村 彰
11	せたな町教育委員会主幹 山本 亨
12	NPO法人枝幸三笠山スポーツクラブ理事 井上 典子



(4) 実施内容

- ・第1回実行委員会

期日/平成30年8月3日(金) 16:00~17:30

場所/札幌市

内容/事業計画・内容の検討

(委員からの主な意見)

- ・企画内容については検討し了承された。
- ・実践モデル地域・クラブはせたな町、枝幸三笠山スポーツクラブに決定した。
- ・委員からはこの取り組みを道内各地で普及できるように啓発してほしいとの意見があった。
- ・深川委員からは、自ら講師役となって参画したい旨のお話をいただいた。
- ・スポーツ団体からは、これらの取り組みを研修会等で紹介していくことが確認された。

■ 実行委員会

パラ
スポ

HOKKAIDO

(4) 実施内容

・第2回実行委員会

期日／平成31年1月30(水) 16:00～17:30

場所／札幌市

内容／実践報告(井上典子委員、山本委員、深川委員)

事業の検証と次年度に向けて

(委員からの主な意見)

- ・次年度は、新しい内容に取り組むのも一つの手ではあるが、同じ内容を継続して、新たな場所で行うのが良いのではないかと。
- ・民間の立場で、障がい者と交流したが、条件が整備されないと難しいと思う。地域を変えて継続した方が良いのでは無いかと。
- ・個人的な意見だが、今日初めて名前を聞く競技もあった。次年度は障害当事者以外に対する障害者スポーツ種目の体験・理解の推進が良いのではないかと。
- ・次年度は、社会的側面から障害種を越えた、あるいは障害の有無にかかわらず参加できるスポーツ大会等の開催支援が魅力的で良い
- ・次年度は、総合型スポーツクラブが実施できる枠として、総合型地域スポーツクラブへの障害者の参加の促進について継続するのが良いのではないかと。
- ・当事者の障がい者にコーディネートをしてもらえるよう指導者養成を行うような事業を提案していくことはどうか。
- ・学校や地域が連携した取り組みが良いのではないかと。今回とは違う目線で進めてみてはどうか。



■ パラスポ倶楽部 I

パラ
スポ

HOKKAIDO

- 事業名／パラスポ倶楽部（車いすバスケットボール体験教室）
 - 日時／平成30年9月22日（土）～23日（日）
 - 会場／枝幸町総合体育アリーナ
 - 主催／北海道
 - 共催／NPO法人枝幸三笠山スポーツクラブ
 - 協力／北海道車いすバスケットボール連盟
 - 参加人数／80名
 - 運営委員会／クラブが中心となって、運営委員会を設置し企画・運営を実施
- ◇9月22日（土）



時 間	内 容
9:30～12:00	枝幸町バスケットボール少年団、枝幸中・高校バスケットボール部及び南宗谷ひだまりの会（障がい者）による車いすバスケットボール体験会①
12:00～13:00	昼食
13:15～15:15	枝幸町バスケットボール少年団、枝幸中・高校バスケットボール部及び南宗谷ひだまりの会（障がい者）による車いすバスケットボール体験会②
15:30～16:30	北海道車いすバスケットボールチームによる模範試合

◇9月23日（日）

時 間	内 容
9:30～11:30	北海道車いすバスケットボールチーム、枝幸町バスケットボール少年団、枝幸中・高校バスケットボール部及び南宗谷ひだまりの会（障がい者）による交流試合

○成果

- ・枝幸町では、初の試みとして注目された事業となった。また、講師役となったバスケットボールチームは全国障害者スポーツ大会に出場した北海道選抜チームであったことから、模範試合などを観戦することができ、車いすバスケットボールをより多くの住民に知ってもらう機会となった。
- ・体験会や交流試合では、枝幸町バスケットボール少年団、枝幸中・高校バスケットボール部及び南宗谷ひだまりの会が参加し、パラスポーツの理解につながった。
- ・枝幸町では、パラスポーツの合宿誘致を考えており、こうした取り組みを通して、環境整備や受入体制を検討する機会となった。

■ パラスポ倶楽部Ⅱ

パラ
スポ

HOKKAIDO

- 事業名／パラスポ倶楽部（ボッチャ体験教室）
- 日時／平成30年10月8日（月）
- 会場／枝幸町総合体育アリーナ
- 主催／北海道
- 共催／NPO法人枝幸三笠山スポーツクラブ
- 協力／北翔大学
- 参加人数／136名
- 運営委員会／クラブが中心となって、運営委員会を設置し企画・運営を実施

時 間	内 容
12:30～13:00	事前講習
13:00～13:30	ボッチャ練習会
13:30～15:30	ボッチャ大会リーグ戦



○成果

- ・認知度があり、手軽なスポーツということで、障害の有無、老若男女にかかわらず、多くの人に参加した事業となった。
- ・参加者からの反応は、「楽しかった、またやりたい」と言った声が多く聞かれ、クラブとして事業は継続実施とすることとなった。
- ・老人施設や学校関係者、保健師からは、日頃のリハビリや授業にも導入していきたいとの話があり、クラブとの連携体制を構築するきっかけとなった。



■ パラスポ倶楽部Ⅲ

パラ
スポ

HOKKAIDO

- 事業名/パラスポ倶楽部（インクルーシブフットボール体験教室）
- 日時/平成30年11月5日（月）
- 会場/枝幸町総合体育アリーナ
- 主催/北海道
- 共催/NPO法人枝幸三笠山スポーツクラブ
- 協力/NPO法人南宗谷ひだまりの会、枝幸中学校、枝幸高等学校
- 参加人数/254名
- 運営委員会/クラブが中心となって、運営委員会を設置し企画・運営を実施



時 間	内 容
13:15~13:30	開会挨拶（主催者）、オープニング（トーンチャイム演奏）
13:30~15:30	参加型体験プログラム 「インクルーシブな出会い ～友さんからのメッセージ～」 講師：インクルーシブフットボールデザイナー 深川 友貴 氏（元プロサッカー選手）
15:30~15:45	記念撮影

- 成果
 - ・インクルーシブをテーマにクラブと学校、福祉施設との連携による事業を実施、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ設えは、学校関係者からは好評であった。
 - ・講師は実行委員でもある深川友貴氏が行い、元プロサッカー選手ならではの技術とトークで参加者をうまく引きつけ、実りある体験ができた。
 - ・参加した生徒からは、障害者を知る、考える機会となった、ボランティア活動がしてみたいなどの声を聞くことができた。
 - ・今後もクラブと学校が連携したこのような取り組みを継続していくきっかけとなった。

■ パラスポ倶楽部

パラ
スポ

HOKKAIDO

- 事業名/パラスポ運動会
- 日時/11月25日(日) 9時30分~16時00分
- 会場/せたな町町民体育館
- 主催/北海道
- 共催/せたな町・八雲町・長万部町・今金町
- 参加人数/101名

【第1部】トークセッション

『パラリンピックが私の人生を変えた』

講師 河合 純一 (パラリンピック競泳 金メダリスト)

【第2部】パラスポ運動会

進行/日本財団法人パラリンピックサポートセンター 伊吹祐輔氏

- ・アイスブレイク
- ・車いすポートボール
- ・ボッチャ
- ・ゴールボール
- ・車いすリレー

○成果

- ・4町合同の事業としては、初の試みであり注目され、当初予定した人数よりも多くの方が参加した。
- ・河合純一氏のトークショーでは、体験談を中心にインタビュー形式で行われ、参加者からはさすがパラ殿堂入りしたパラリンピアンは違うと好評であった。
- ・町の関係者からは、参加者が楽しそうに障害のある、なしに関わらず、協力し合いながら参加している姿を見て、今後も継続していきたいとの声が多かった。さらに、次回は子供たちにも多く参加してもらえるような設えを検討していくとの意見も出された。
- ・運営は、日本財団法人パラリンピックサポートセンターに協力していただき、スムーズに運営することができた。また、町の関係者は運営のパラスポセンターからノウハウを学ぶ機会となった。



■まとめ

パラ
スポ

HOKKAIDO

- 本事業を通じて、障害者にとってのスポーツは、体力の維持や心身の成長などにおいて、健常者以上に必要性が高い場合も少なくないと感じた。さらに障害者スポーツ行政が福祉からスポーツに移っても、すべての障害者にスポーツの機会を提供するためには、福祉分野のネットワークと、福祉関係者のスポーツへの理解が不可欠であると痛感した。
- また、スポーツ関係者、障害者スポーツ関係者、福祉関係者の3者が協力して事業に取り組むことで、人材、資金、時間、そして空間を共有することができることや、既存のスポーツイベントや教室の工夫などをきっかけに、連携して負担を抑えながら、障害者のスポーツ環境を少しずつ改善できれば良いと感じた。
- さらには、障害者を含む参加者の心身の健康増進と地域住民の交流の促進を目的としたスポーツ関係者や障害者スポーツ関係者、福祉関係者の3者が成果を共有でき、継続できる事業の組み立ても重要であると感じた。
- 今後は、障害の有無にかかわらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる社会を作るために、地域では、スポーツ関係者、障害者スポーツ関係者、福祉関係者の連携体制を構築することが急務であると感じた。



いつでも、どこでも、だれもが
笑顔で楽しむことができる
スポーツ環境の創出

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、北海道が実施した平成30年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。